

松本翔は取り組みます!



令和3年度 渋谷区予算事業概要

新型コロナウイルス感染症については、国を挙げて対策に取り組んでいるものの、未だに収束について見通せる状況にありません。1日も早く安心して暮らせる日々が戻ることを願いながら、区民の皆さまの安全・安心のため、渋谷区PCRセンターの維持やワクチン接種の体制整備を行うとともに、非接触型社会の促進などを進めてまいります。

令和3年度当初予算においては、上記の感染症対策はもちろん、従来から進めてきた子育て・教育環境の整備や超高齢社会への対応、まちづくり、公共施設等の老朽化対策などについても、その歩みを止めることなく取り組みます。また、コロナ禍による税収減が見込まれる中、基金の活用等により財源確保を行います。一般会計予算総額は994億4,900万円となり、対前年比5.5%減の予算規模となりました。本特集号では、次の8項目について解説します。



教育ICTの先駆的推進

ICTを活用した対面指導とオンライン教育とのハイブリッド化を推進し、指導の充実を図ります。学校間ネットワーク環境の回線速度を増速させ、デジタル教科書の導入や遠隔授業に活用するとともに、学習履歴などの教育ビッグデータを活用し、一人一人の個性や力を引き出す個別最適な学びを充実させます。



渋谷ワンダフル給食プロジェクト事業

今までの学校給食の枠を超える新しいメニューを開発・挑戦することで、「給食では出たことがない」、「東京ではなかなか食べる機会がない」など学校給食の可能性を広げていきます。「食べる力」を育み、食に関する知識、地域・季節・旬の産物や歴史など食文化への理解を深める機会を提供し、一生涯にわたる「食習慣」を身につけることを目指します。



高齢者デジタルデバインド解消事業

65歳以上の区民を対象に最大3,000台のスマートフォンを無償貸与し、通信料・通話料も区が負担します。貸与期間は2年間で、初めて操作する高齢者が安心して利用できるよう、講座やコールセンターの設置、個別相談会などサポートを実施します。スマートフォンの活用により、防災情報や介護・フレイル予防、見守りなどを充実させます。



神宮前三丁目障がい者施設

渋谷区の基本構想「あらゆる人が、自分らしく生きられる街へ」を障がい福祉分野で実現するため、令和6年12月の開設に向けて神宮前三丁目に障がい者施設を整備します。関係者・団体との度重なる意見交換会を経て要望を整理し、児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護など、障がい児者が地域で生活を営むための障がい福祉サービスを提供します。



落書き対策プロジェクト

「落書き問い合わせセンター（仮称）」を開設し、所有者等から落書き通報を受け、所有者等の申込み・承諾を受けて消去する体制を整えます。渋谷区の5つの地域を1年ごとに地域分けして3か年で全域をカバーする予定で、3年度は渋谷駅周辺や東京2020大会に関連して代々木・千駄ヶ谷・原宿・神宮前地域を重点地域として行います。



西参道プロジェクト

明治神宮が令和2年に鎮座100年を迎えたことを契機に、明治神宮へ通じる西参道と、隣接する首都高速道路4号線の高架下の一部の再整備を行います。高架下は将棋文化を発信し、地域交流へつながる新施設を令和4年度に向けて整備を行い、西参道道路は沿道地域と一体性のある参道に相応しい道路となるよう進めていきます。



LINEを活用した非来庁型サービスの拡充

現在、渋谷区公式LINEアカウントにおいては、住民票の写しや課税証明書等の申請、落書きの情報提供等が可能となっています。オンライン申請の活用は、窓口への密集・混雑を避け、感染リスクの削減にも繋がるため、令和3年度以降も拡充し、窓口や講座等の予約機能、国民健康保険加入・脱退申請、にこここママ登録申請等へ拡大していきます。



@shibuyacity

新型コロナウイルス対策事業

区独自PCRセンターや無利子融資制度の継続に加え、今後のワクチンの本格接種を見据えた体制整備を行います。予約システムや相談のためのコールセンターの整備、さらに個別・集団接種のための会場確保を進めます。また外出を控える方も気軽に相談できるように、オンラインでの健康相談体制も整えます。



渋谷区議会議員 松本翔 は、バランスのとれた施策を実現します